

## 枚方の地理・地形

●枚方市は大阪府の東北部、淀川沿いに位置し、東西12km、南北8.7km、市域面積は65.08km<sup>2</sup>。生駒山地から続く起伏と淀川がつくる低地部によって形成されており、最高地点は海拔330m、最低地点は4.1mです。地形は標高によって大まかに4つに区分されます。

●標高100m以上の山地地区（地形区分Ⅰ）は、生駒山地から連続する山間部であり、市の東端部を占めます。標高50～100mの山麓地区（地形区分Ⅱ）では、長尾丘陵が山地部に続き広がっています。標高20～50mの丘陵地区（地形区分Ⅲ）では、天野川以

西の枚方丘陵（香里丘陵）と以東の枚方台地が広がっています。枚方丘陵は尾根筋が東西に走り、枚方台地は標高約30mの平坦な段丘面です。標高20m以下の淀川低地地区（地形区分Ⅳ）では、淀川とそれに流入する河川の氾濫原が広がっています。



## 空からみた枚方



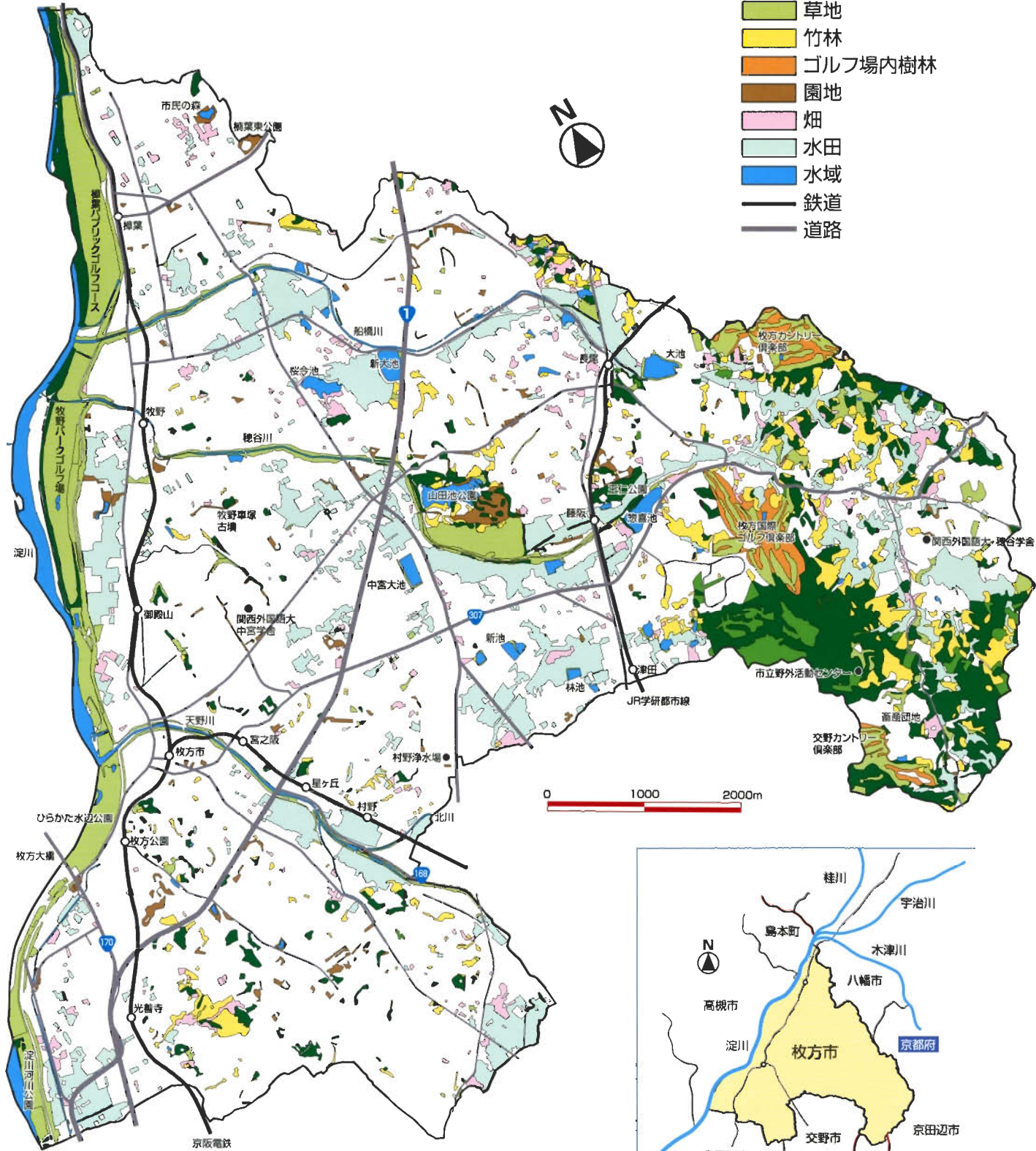
国土交通省近畿地方整備局浪速国道工事事務所 提供の写真を修正・加筆したものです

## 植生マップ

「枚方市現存相観植生図」をもとに緑地のタイプや水域を区分したものです

### 凡例

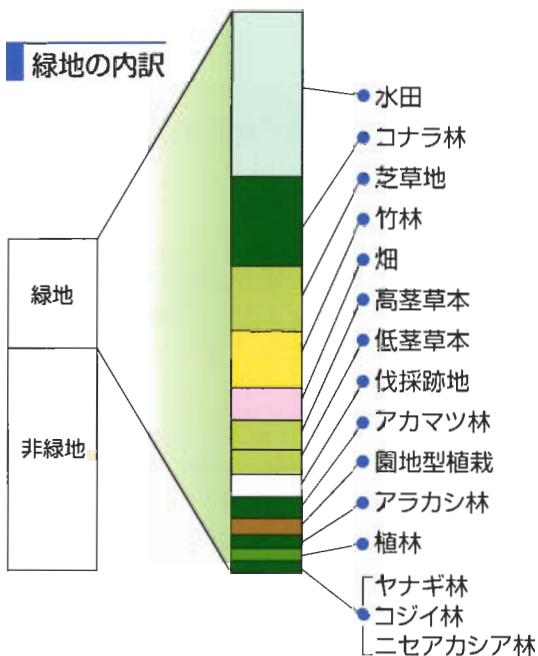
- 自然林
- 植林
- 草地
- 竹林
- ゴルフ場内樹林
- 園地
- 畑
- 水田
- 水域
- 鉄道
- 道路



## 植生の概要

森林については、枚方市の気候のもとでは、大部分がシイ・カシなどを主体とする暖温帯常緑広葉樹林帯に属していますが、現在そのほとんどはコナラ林やアカマツ林などの二次林（人間の活動によって原生林が改変されて成立した樹林）に置き換わっています。本来の植生である常緑広葉樹林は、社寺林などにコジイ林、アラカシ林としてわずかに残っています。

草本については、淀川河川敷にかつて広く分布していたヨシ群落、オギ群落などの自然植生に近い湿地性高茎草本群落が河川改修などで失われ、今では楠葉付近にわずかに見られるだけになっています。船橋川、穂谷川、天野川などおもな河川では、セイタカアワダチソウやクスが連続的に分布しています。



## 里山

「植生マップ」でわかるように、穂谷・尊延寺地区などの東部地域は、コナラ林やアカマツ林などの二次林を中心とした自然林が多く見られ、里山と呼ばれています。

里山は、低山や丘陵に広がり、農業を営むのに必要な薪炭をはじめ、木材や堆肥、木炭などを生産する農用林。里山は、さまざまな生産機能をもっており、その自然条件に合った利用、管理が長年続けられることによって豊かな動植物をはぐくみ、生物多様性を維持する重要な役割をになってきました。しかし、燃料革命などによって里山は活用されなくなっており、生物多様性も著しく減少しているのが現状です。



## 緑被率の変化

今回確認された平成12年(2000年)の緑被面積は約2,160ha。平成2年(1990年)に比べると、10年間で7.6%減少しています(両年の調査対象地をそろえるため草地を除いた緑被地合計で比較)。

緑被率の移り変わりをみると、人口が約13万人だった昭和40年(1965年)は83.3%でしたが、約30万人となった昭和50年(1975年)には52.1%にまで減少。以降、人口の伸びにあわせて減っています。一方、淀川沿いの草地と東部地域の穂谷・尊延寺地区が“緑の核”として位置づけられることが読みとれます。

